



YES 通信



〒819-1116 糸島市前原中央2-2-22波多江ビル2F 電話 321-4119 2022年4月号

そろばんの有段者との交流会を終えて

先日、そろばんの有段者講師と生徒、保護者様の交流会を実施しました。参加いただいたみなさんありがとうございます。

大濠高校のバスケットボール部の優勝に関わったメンタルコーチの石橋さんが勧めているインナーゲーム理論には「人間は明確なイメージがあれば、誰でもそのイメージした目標に向かって努力する素質を持っている。」とあります。プロ野球選手のプレーを見た子供たちが、急に野球が上達するのもイメージが湧きやすくなるからでしょう。

そんな話を聞いて、そのことをそろばんの授業でも活用していきたいと常々思っていました。姿勢の良い生徒の姿勢を見学させたり、指の動きが綺麗な生徒の指の動きを見学させたりすることで、生徒たちがイメージしやすい環境を作りたいと考えて取り組んでいます。

今回は、せっかく10段の講師が入ってきたのですが、九州大学の医学部ということで、2年生からは箱崎に引っ越しになるのです。そこで、10段の講師がいなくなる前に何とかそのようなきっかけを作りたいということで、交流会を試みた次第です。他の段位の講師にも声をかけ3名の講師が快く引き受けてくれました。3人とも真剣にそろばんに取り組んできた学生で、全員そろばんをやってきて本

当に良かったと信じています。また、そろばんの普及に貢献したいとのことで、人に見られながらそろばんを弾くという嫌な役目を買って出ってくれたのです。

そろばんの10段とは、競技人口と10段取得者数から考えるとプロ野球選手になるのと同じくらいの難易度です。まさにそろばんのプロの技をみんなで見ることが出来たのです。

静まり返った教室の中でそろばんの音だけがこだまします。保護者の方がこぞって動画を撮影なさる姿も印象的でした。

私が一番印象に残ったのは、活発な質疑応答でした。何も質問が無かった場合に備えて、こちらで質問を用意していたのですが、完全に取越し苦労に終わりました。新3年生の女の子までも積極的に質問していました。保護者様の質問も相次ぎ、参加者の皆様の関心の高さを感じ取ることが出来ました。

その中でも、「合格出来なくて苦しかったことはありますか？」という質問に対して、「1年間合格できない時があった。」「合格出来なくて中3でも泣いていた。」「等このようなそろばんエリート達が、みんな不合格を経験しているということでした。むしろ彼らの方が、不合格になった回数はうちの生徒達よりはるかに多いということでした。ただ、不合格から

学び次どうするかをみんな考えて練習に取り組んだことだけは共通していました。中には「嫌になってさぼったこともあった」との回答もありました。ただ引き起こさなく次の授業には必ず行っていたそうです。

時間を短縮させるために、いかに自分の動作を見直す工夫が大切なのか、また、結果を受け止め次に生かす姿勢や考え方の大切さは勉強になりました。生徒達には、今日見て感じたことを常にイメージして今後のそろばんに活かしていって欲しいです。

終了後も「医者になりたいけど医学部にはどうしたら合格合格できるか？」と質問している生徒もいました。夢が実現したら素敵ですね！



そろばん有段者講師との交流会の様子です

やる気相談室

思考力

入試問題の傾向と思考力強化の必要性について

コースになったのは記憶に新しいです。

最新の公立高校入試の

問題を見て、みなさんほどのような感想をお持ちになったでしょうか？

また、学校のテストの問題形式も以前とはかなり異なったものに感じるのではないのでしょうか？

最近の問題は、昔のよう

に「暗記」しておけば解ける問題が減り、

思考力を問う問題が増加傾向にあります。

文章量も多くなっているのです、とても

難しくなったように感じるはずです。

変化の背景には、いくつかの要因が考えられますが、一時的なものではなく、今後ともより強まる予想されます。

今年の共通テストの数学は、数Ⅰ・Aは平均が41.25と前年比17.43点のダウン、数Ⅱ・Bも平均が45.89と前年比14.04点のダウンとなり大きな二

2020年度までの中学校の成績の評価

基準は、「知識・理解」、「技能」、「思考・判断・表現」、「関心・意欲・態度」の4観点ありました。「知識・理解」と「技能」は基礎的な知識定着をはかる観点であり、これを習得することが、評価の半分を占めていました。しかし、2021年度からの学習指導要領では、観点別学習状況の評価の観点が整理され、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に変更となりました。

基礎的な知識定着をはかる観点の「知識・理解」、「技能」は1つに統合され、全体の3割程度の比重となりました。しかし、「思考・判断・表現」については、そのまま残っているのに、相対的に、評価の割合が大きくなったといえます。

先程も述べましたが、大学入試共通テストに目を向けても、数学をはじめ、各教科難しくなったと感じる受験生が多数を占めました。これに拍車をかけるように、20

25年1月実施の共通テストでは、国語や

数学の試験時間を長くすることが検討されています。長くなった分、思考力を問う問題が増えることが予想できます。では、「思考・判断・表現」の観点で問われる力はどうすれば身に付くのでしょうか？

まずは、やはり読書です。良い本を沢山読み語彙力を高めることは思考力の向上には欠かせません。また、新聞など今起っていることへの関心を高めそれがなぜ起こったのか考えることも重要です。

そして、自分で考えてあらゆるパターンの問題を解く訓練をすることです。将棋や囲碁などもとても良いと思います。簡単に解ける問題ばかり解くのではなく、問題や課題を解決するために考える時間を確保することが大切なのです。

どんなことをすれば良いのか？イメージが湧かない方にはEQシムの体験をお勧めしています。EQシムの問題を見れば見るほど新傾向の問題に似ていると感じるからです。楽しく出来るのも魅力ですよ。

西股総生著

戦国武将の現場感覚

書籍紹介

この本は、久しぶりに新幹線に乗った際にキオスクで見つけた本です。日頃は選び放題のネットで購入していますが、久々に限られた中での本選びでした。本書の著者、西股さんという方は、戦国時代のあらゆる事象に精通されていて、NHKの大河ドラマでも考証で複数回参画されています。読み始めて最初に感心したのは、戦国時代の同級生を採せということでした。自分の誕生日から400年さかのぼるとそこは戦国時代という書き出しで戦国時代をイメージするのです。作者と私は2歳違いなので書かれていることの2年後に自分が存在するのです。正直、自分は今まで歴史を全くの他人ごととしかとらえていませんでした。自分事としてイメージすることでより実感が湧いてくるのです。ここで、興味深い体験がありました。たまたま日本史の得意な講師を探していた時、普通理系の大学生は地理を選択していると思っていたのですが、うちの講師たちは意外と日本史を選択している学生が多いのに気が付きました。理由を尋ねたら「面白かったから」と答えている人ばかりでした。自分はなんとなく地理が楽だからとか覚えることが少ないからという理由で選んでいました。歴史が好きな人は自分事として捉えているのだらうと気付かされる1冊でした。

